

血液検査サンプルサーベイ 結果報告

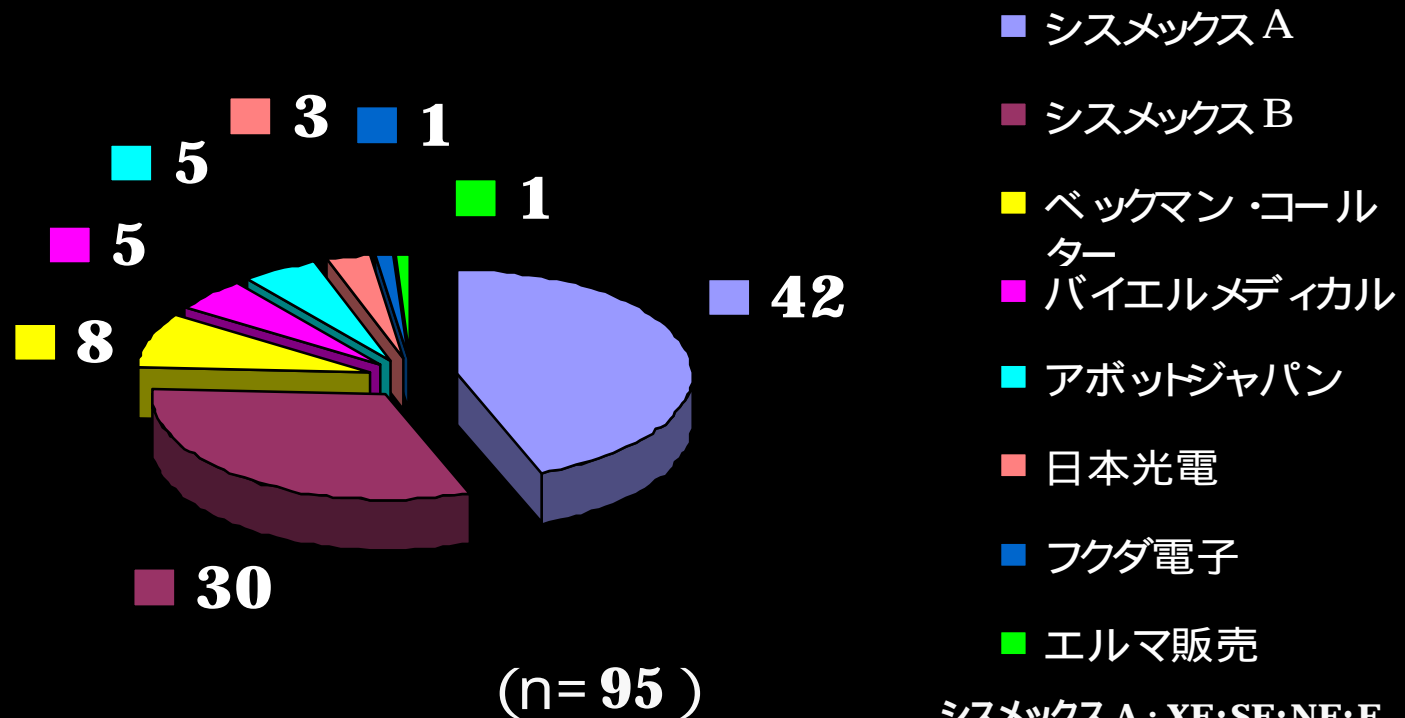
(社)千葉県臨床検査技師会
血液検査研究班

目的

- 血算測定の実状把握 (機種・測定状況)
- 血算測定における機器間差の把握・是正
- 人工試料ではなく 生血を用いたデータの収集・解析

アンケート結果

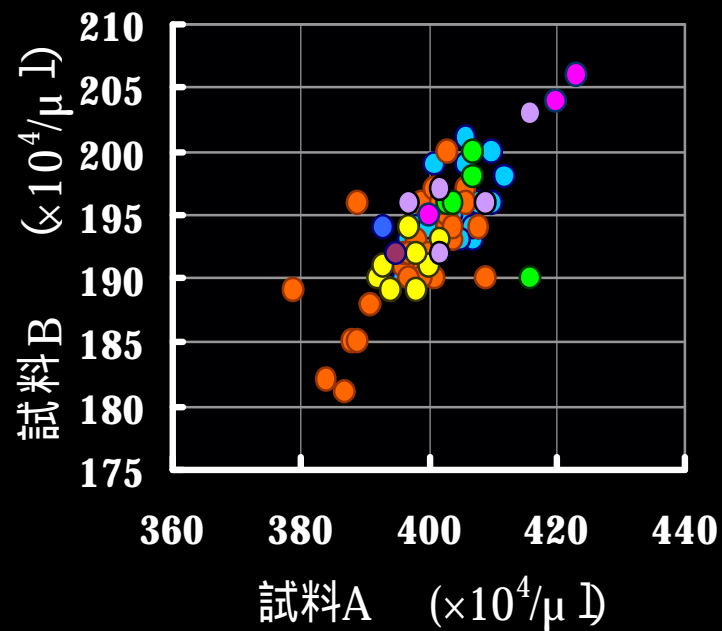
使用測定機器



シスメックス A : XE・SE・NE・E
シスメックス B : SF・Kシリーズ

サンプルデータ (赤血球数)

ツインプロット

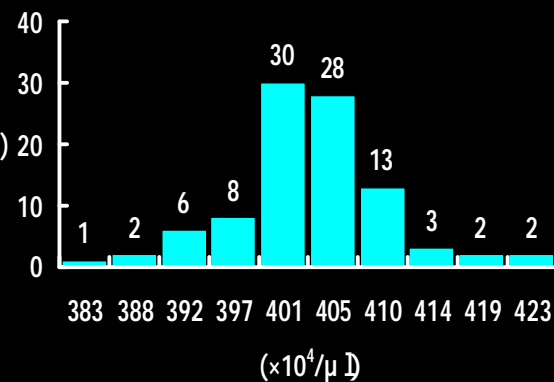


- シスメックス・A
- シスメックス・B (n)
- コールター
- アボット
- バイエル
- 日本光電
- エルマ
- フクダ

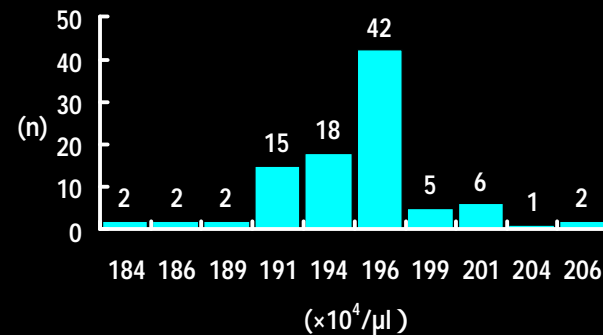
シスメックス A : XE・SE・NE・E
 シスメックス B : SF・Kシリーズ

ヒストグラム

試料A

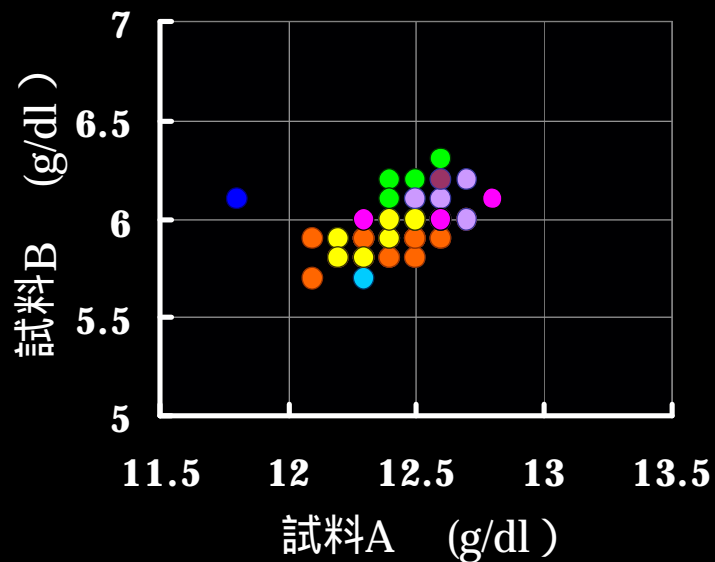


試料B



サンプルデータ (ヘモグロビン濃度)

ツインプロット

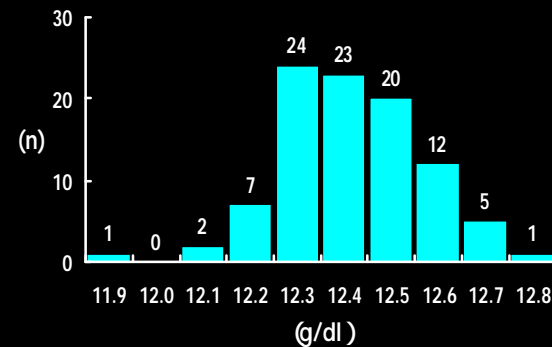


- シスメックス・A
- シスメックス・B
- コールター
- アボット
- バイエル
- 日本光電
- エルマ
- フクダ

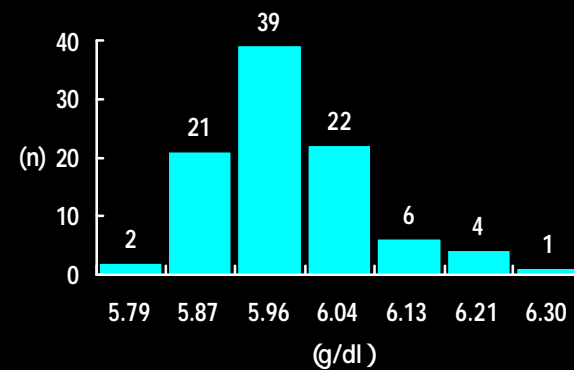
シスメックス A : XE・SE・NE・E
 シスメックス B : SF・Kシリーズ

ヒストグラム

試料A

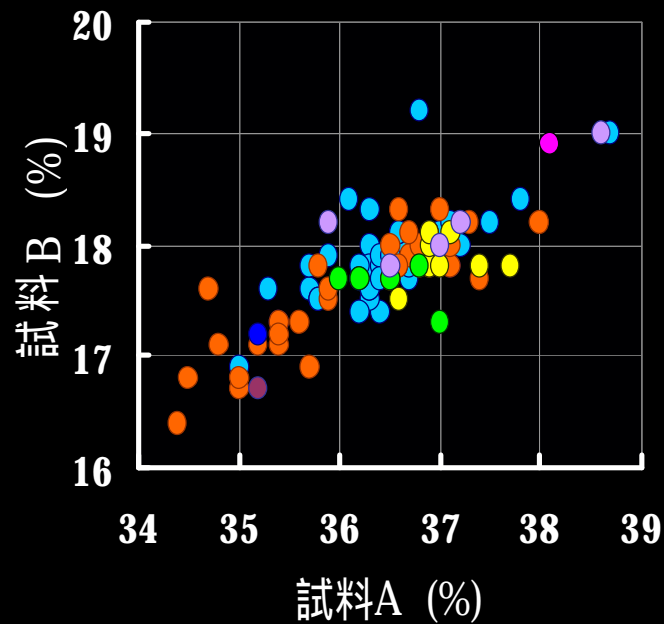


試料B



サンプルデータ (ヘマトクリット)

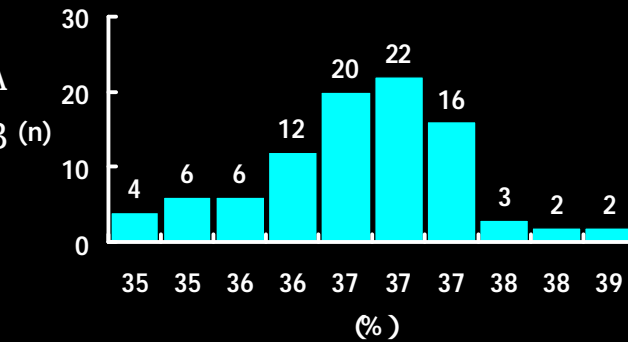
ツインプロット



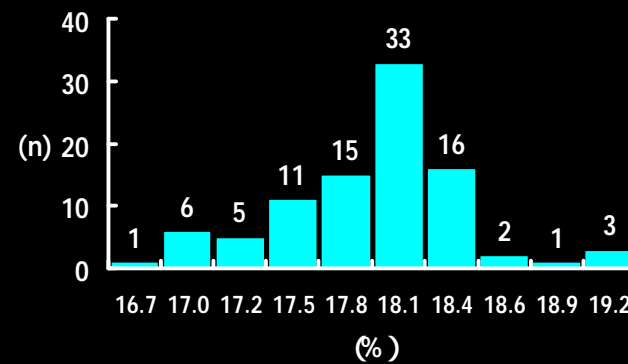
シスメックス A : XE・SE・NE・E
シスメックス B : SF・Kシリーズ

ヒストグラム

試料A



試料B



まとめ

- 今回は、サンプルが不良だったため評価はせず結果のみの報告とした。
- 一部の項目においてはサンプルの問題に加えて、機種間差及び機器間差も考えられた。
- 来年度以降の血算部門サーベイについては、今年度の結果を充分検討し、改善対処する。

2003年度 血液像検査サーベイ報告

【はじめに】

血液像検査は、1枚の末梢血標本から多数の情報を引き出し、患者の状態や疾患を推測することが可能な検査である。

今回は前回までと同様白血球分類に加え、考えられる疾患について考察してもらった。

方法

- ・2種類の未染標本を参加施設の方法で染色し、白血球分類を行う
(鏡検倍率、カウント数は各施設の自由とする)
- ・分類した結果から考えられる疾患等を考察に記載する。

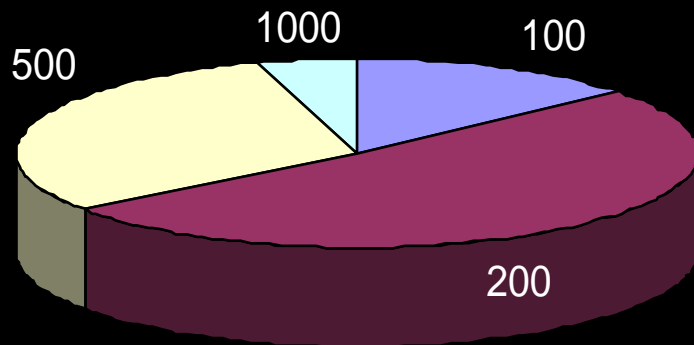
参加施設数

68施設

病院 : 59施設 検査センター : 8施設

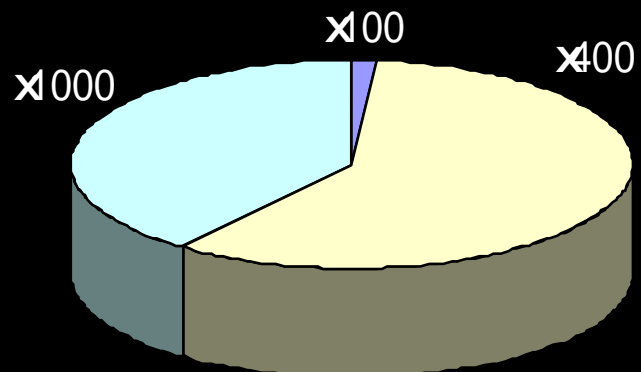
その他 : 1施設

標本 カウント数



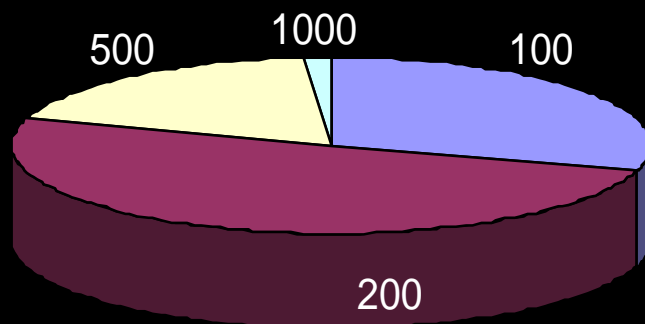
カウント数	施設数 (%)
100	13.8
200	50.8
500	30.8
1000	4.6

鏡検倍率



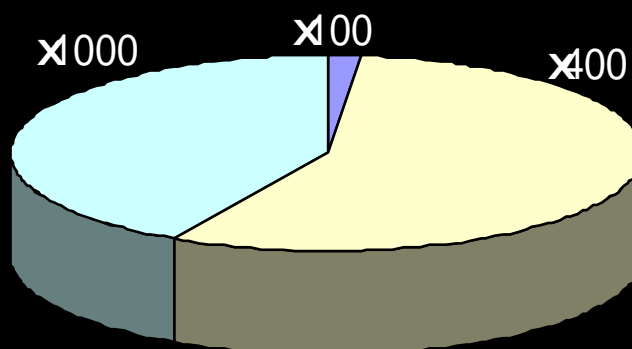
鏡検倍率	施設数 (%)
x100	1.5
x200	0
x400	58.8
x1000	39.7

標本 カウント数



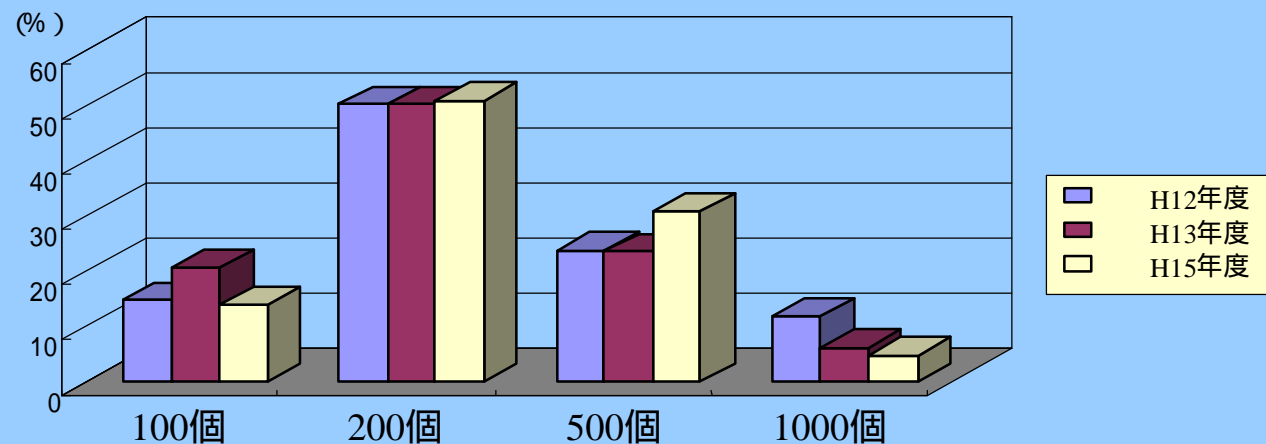
カウント数	施設数 (%)
100	29.7
200	50
500	18.8
1000	1.5

鏡検倍率



鏡検倍率	施設数 (%)
x100	1.6
x200	0
x400	56.5
x1000	41.9

年度によるカウント数の推移



カウント数	H12年度	H13年度	H15年度
100個	14.7	20.5	13.8
200個	50	50	50.8
500個	23.6	23.5	30.8
1000個	11.7	6	4.6

標本 細胞分類の考察

	施設数 (%)
CML	83.5
MDS	4.5
感染症	1.5
貧血	1.5
考察あり	4.5
記入なし	1.5

標本 細胞分類の考察

施設数 (%)

白血病を疑う	13.4
FAB分類のM系を疑う	32.8
FAB分類のL系を疑う	10.4
MDSを疑う	7.5
MDSからAMLの移行を疑う	4.5
CMLのcrisisを疑う	1.5
Lymphomaを疑う	1.5
ATLを疑う	4.5
悪性を疑う	1.5
貧血を疑う	1.5
考察あり(疾患名記載なし)	7.5
記入なし又は不参加	13.4

まとめ

今回、白血球分類の結果より考えられる疾患等を考察してもらったが、標本 では80%以上の施設からCMLと回答が寄せられた。

・標本 では、12通り以上の回答が寄せられ、ばらつきが見られた。

今後のサーベイでは、白血球分類に加え、考えられる疾患の考察、次に行うべき検査の考察等も必要であると思われる。